

## 被災地・岩手に学んだ「防災力」

# 命綱は地域の絆

大災害が起きた時、わたしたちは避難生活をどう営むのか。いまは10万人超が避難所に身を寄せる東日本大震災の光景は、行政でなく、住民自身の力が命綱になることを教訓として示した。京都市の場合も、大規模災害の際は住民が自ら避難所を運営するしかない。岩手県の被災地で学んだことをもとに「地域の防災力」について考えた。(中塩路良平)



住民同士でルールを決めて、共同生活を送る被災者たち。昼食の炊き出しでは笑顔も連綿見えた(4月7日、岩手県陸前高田市・オートキャンプ場モヒリア)

薬の種類と残量の把握といった細かいニーズにも対応した。苦情もなく一丸となった理由を、千田さんは「普段からの地域の結び付きがあったから」と説明した。薬を管理するリーダーを務めた芳野の母・小野美穂さん(25)は「幼少期から顔見知りのはあちゃんもいる。自分の地域のために手を挙げ

## 京リポート 11

所の学校が避難所に指定され、約15万人の収容を見込むが、市消防局は「個別具体的な運営の形までは組み込めていない」とする。

害は免れたが、電気と水が不通の「自宅難民」に食糧を配り、その代わりに業務に参加してもらった。他の避難所で「仕事もせず、物資だけ持って行く」と不平が出るケースを聞いたからだ。「有事の牧本時男会長(57)ほど人間関係は壊れやすい。バランスを取る」ことが大事なんです。千田さんの実感だ。

「避難所運営」「住民が自主的に」を運営するのは住民の「ず」と、20・30代の住民に地域参加してもらおうと積極的に呼びかけられている。

記者が見た東北の避難所では、行政のマニュアルよりも人々の絆が力を発揮していた。京の町で市民が励む日は「共同生活に必要なルールを定め、徹底力」を高めていくはずだ。中内約400カ所だ。

## 行政頼らず共同生活

震災の約1カ月後の「シグ」と書いた紙を見、行政の仕事だろうが、4月7日、岩手県陸前高田市を訪れた。当時、今回は十時半後2時「死亡した。わしらが避難所のオートキャン「仮設住宅への申し込るしかない」フ場「モヒリア」に約「民間力」千田さんは避難所の70人が暮らしていた。シスタンドが12日に開「運営に携わる数人の住の漁師・千田勝治さん「集会以全員に伝える情「活ルールを決め、必要(2)」が「一週ミーティ」頼たという。「本来はな仕事を振り振って



学区レベルで唯一作成された避難所運営のマニュアルを教習自主防災会の牧本時男さん(左)らに京都市上京区

## 避難所運営「住民が自主的に」

京都市が大災害が発生する。それは、今回と同様の「京都市地域防災計画」が求められる。避難所

「避難生活」の項目には「共同生活に必要なルールを定め、徹底力」を高めていくはずだ。中内約400カ所だ。

「避難生活」の項目には「共同生活に必要なルールを定め、徹底力」を高めていくはずだ。中内約400カ所だ。